



22 JAZZ

カッコよかった頃のアメリカのジャズのある風景。

↑中身が熱いだけでなく、写真集そのものも分厚くデカイ。約29740cmという大判で厚さは7cm。



↑60年代のイケてるファッションにシビれるぜ。
2万6250円(タッセン・ジャパン刊)



←撮影の旅の途中で録音した音源をまとめて1960年に発売したレコードが付録CDに。コルトレンなども。

F & E読者にとってはステイブ・マックイーンの写真集でお馴染みの写真家ウィリアム・クラクストン。じつは彼、1950年代には多くのジャズのレコードジャケットの写真を撮って、デニス・ホッパーに「ジャズクラブに行くより彼の写真を見ている方が興奮した」と言わしめるほどジャズに精通した人でもある。そんな彼の渾身の力作を集めた写真集「JAZZ LIFE」がリリースされた。収められている作品は、1960年にニューヨーク、ボストン、シカゴ、ジョージア、セントルイスなどを4ヶ月かけて撮影したもの。有名なジャズ奏者はもちろんのこと、路上のストリートミュージシャンたちにもフォーカスして、当時のジャズのある町の風景をそのままに切り取っている。まだまだ黒人差別の激しかった時代だけど、ジャズと同様に粹でおしゃれな人々が多かった。クールなのはこういうスタイルなんだよな、と実感。カッコいいアメリカがここにある。●ぶく